



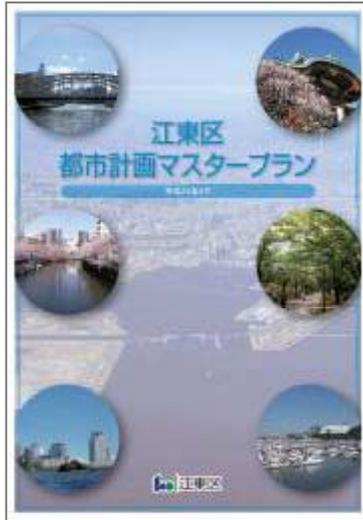
江東区臨海部 コミュニティサイクル 実証実験について

平成25年2月5日

江東区都市整備部まちづくり推進課

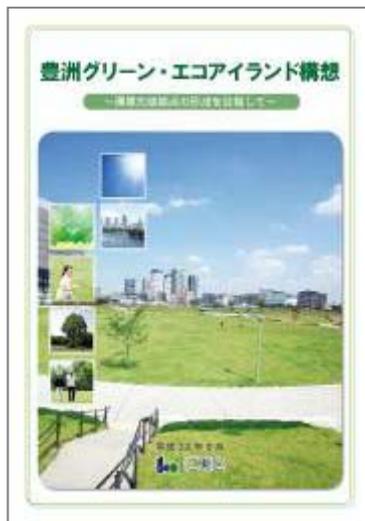
背景と目的①

上位計画における位置づけ



◀ 江東区都市計画マスタープラン (H23.03)

南部地区（臨海部）において、環境にやさしいコミュニティサイクルの導入を検討するなど、交通分野での低炭素化を進める。



◀ 豊洲グリーン・エコアイランド構想 (H23.06)

視点4「環境と人にやさしいエコモビリティの導入」において、コミュニティサイクルの導入により、環境まちづくりの実現を図る。



背景と目的②

臨海部のポテンシャル（就業人口・居住人口）

【参考】

<晴海地区>（中央区）

	人口フレーム	現状値※
就業人口	39,000人	約24,000人
居住人口	31,000人	約7,500人

- 基盤整備の概成:平成27年度頃
∴ 豊洲・晴海開発整備計画—再改定(豊洲)案—
 [東京都 平成14年9月]より

<豊洲(ふ頭)地区>

	人口フレーム	現状値※
就業人口	44,000人	約100人
居住人口	13,000人	0人

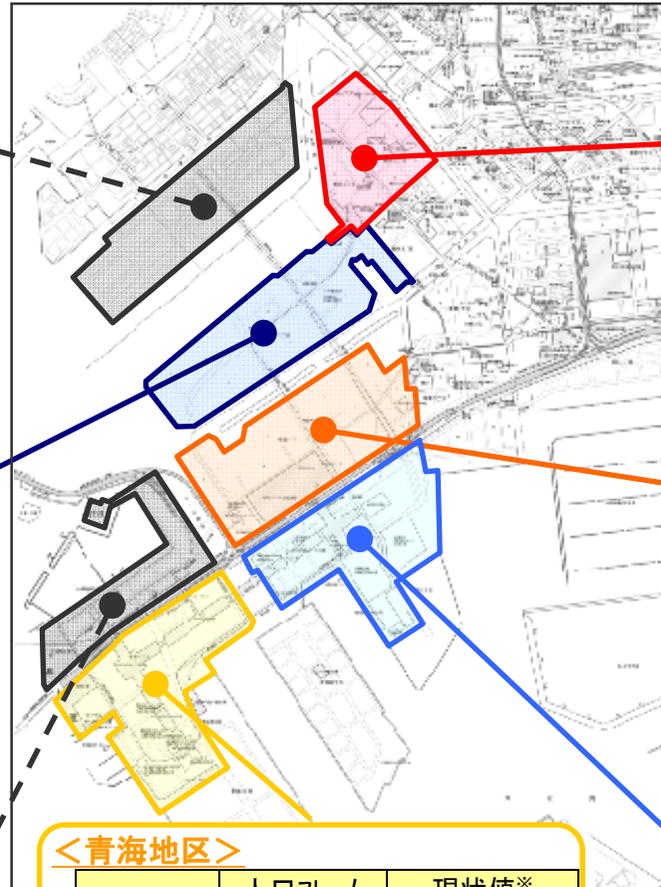
- 基盤整備の概成:平成27年度頃
∴ 豊洲・晴海開発整備計画—再改定(豊洲)案—
 [東京都 平成14年9月]より

【参考】

<台場地区>（港区）

	人口フレーム	現状値※
就業人口	16,000人	約14,000人
居住人口	5,500人	約5,000人

- ∴ 臨海副都心における土地利用等の一部見直し
 [東京都港湾局 平成18年9月]より
- まちの概成:平成7年度頃
∴ 臨海副都心開発の今後の取組み
 ~総仕上げの10年間~
 [東京都港湾局 平成18年3月]より



<豊洲1~3丁目地区>

	人口フレーム	現状値※
就業人口	33,000人	約31,500人
居住人口	22,000人	約13,000人

- まちの概成:平成33年度頃
∴ 豊洲1~3丁目地区まちづくり方針
 [東京都 平成13年10月]より

<有明北地区>

	人口フレーム	現状値※
就業人口	14,000人	約5,500人
居住人口	38,000人	約6,000人

- ∴ 臨海副都心における土地利用等の一部見直し
 [東京都港湾局 平成18年9月]より
- まちの概成:平成27年度頃
∴ 臨海副都心開発の今後の取組み
 ~総仕上げの10年間~
 [東京都港湾局 平成18年3月]より

<有明南地区>

	人口フレーム	現状値※
就業人口	18,000人	約6,500人
居住人口	2,000人	約50人

- ∴ 臨海副都心における土地利用等の一部見直し
 [東京都港湾局 平成18年9月]より
- まちの概成:平成17年度頃
∴ 臨海副都心開発の今後の取組み
 ~総仕上げの10年間~
 [東京都港湾局 平成18年3月]より

<青海地区>

	人口フレーム	現状値※
就業人口	42,000人	約12,000人
居住人口	1,500人	約150人

- ∴ 臨海副都心における土地利用等の一部見直し
 [東京都港湾局 平成18年9月]より
- まちの概成:平成27年度頃
∴ 臨海副都心開発の今後の取組み
 ~総仕上げの10年間~
 [東京都港湾局 平成18年3月]より

- ※ 現状値のうち「就業人口」については、経済センサスによる平成21年7月1日現在の値
- ※ 現状値のうち「居住人口」については、住民基本台帳による平成24年1月1日現在の値

背景と目的③

臨海部のポテンシャル（自転車走行環境）

歩道幅員が6m以上（片側）の区間が多い
ほとんどの路線が「普通自転車の歩道通行可」の指定路線



歩道上にステーションを設置しても
歩道幅員を4m以上確保できる





背景と目的④

臨海部のまちづくりの課題

- 多くの集客施設等（商業施設、業務施設、大学、大規模マンション等）が点在しており、
施設間の移動が不便
- 今後の開発により
来訪者、就業者、居住者が大幅に増加
- 大量輸送機関（有楽町線、りんかい線）及び
中量輸送機関（ゆりかもめ、路線バス）は
整備されているが、**端末交通が不足**



背景と目的⑤

コミュニティサイクル導入による効果

- ・ 運河に隔てられた各地区・施設間の連携による
臨海部の更なる魅力向上
- ・ 他の公共交通機関との連携による
移動利便性の向上
- ・ 地区内の回遊性向上による
賑わい創出及び滞在時間の延長
- ・ 自動車移動の減少（公共交通への転換、パーク&サイクルライド
などの新たな交通施策）によるCO₂の削減



背景と目的⑥

上位計画における位置づけ

江東区マスタープラン

豊洲グリーン・エコアイランド構想

臨海部のポテンシャル

来訪者、就業者、居住者の増加

自転車走行環境

臨海部のまちづくりの課題

施設間の移動利便性

端末交通の不足

江東区臨海部に
コミュニティサイクルを導入

導入による効果

臨海部の魅力向上

移動利便性の向上

賑わいの創出
滞在時間の延長

自動車移動の減少による
CO₂の削減

環境まちづくり
の実現

実証実験の実施方針

検討方針

コミュニティサイクル導入による効果を見るために実証実験を行い、効果検証の結果を踏まえたうえで本格導入を判断する。

運営事業者の選定

- ・ 運営事業者は、公募によりNTTドコモを選定
- ・ 民間事業者の発意と創意工夫により、区の事業費負担なく実施

実施主体と運営事業者の役割

【実施主体（江東区）が行う業務の範囲】

- ・ 実証実験の全体の総括
- ・ ステーション用地（公共用地）の確保
- ・ 広報活動 等

【運営事業者（NTTドコモ）が行う業務の範囲】

- ・ ステーション用地（民地）の確保
- ・ 運営に必要な機器一式の設置、修繕、実験終了後の撤去
- ・ 運営全般（会員管理、貸出返却管理、クレーム対応等）
- ・ 事業採算性を向上させるための附帯事業
- ・ 広報活動 等

● 実証実験の概要①

事業の概要

- 名 称 : 江東区臨海部コミュニティサイクル実証実験
- 実施期間 : 平成24年11月21日～平成25年11月30日（予定）
- 実施区域 : 臨海部（豊洲、東雲、有明、青海、台場など）
江東区 港区
- 実施主体 : 江東区
- 運営事業者 : NTTドコモ



● 実証実験の概要②

機器-1



実証実験の概要③

機器-2

ステーションの仕様



- ・ 自転車を貸出・返却するための施設
- ・ 自転車と歩行者、自動車との安全対策を実施（ガードパイプ等）



注意喚起
看板

歩道の
切り下げ

● 実証実験の概要④

機器-3

自転車

車体広告



- ・タイヤサイズ20インチの自転車を採用
- ・ドレスガードに広告を掲載

実証実験の概要⑤

機器-4



- ・ 自転車を貸出・返却するときに使用

実証実験の概要⑥

機器-5



実証実験の概要⑦

ステーションマップ

- 0 有人登録カウンター
- 0 ステーション
現在 13箇所
今後 20箇所程度に拡大予定
- 0 ステーション(今後設置予定)



実証実験の概要⑧

利用料金

	おでかけの機会が多い方		気軽に試してみたい方
会員区分	1回会員	月額会員	1日パス
基本料金	100円/回 ※1	1000円/月 ※1	500円/日 当日利用可能時間内 何度でも利用可能
延長料金	100円/30分 ※2 1回の利用が60分を 超過した場合に必要		なし
支払方法	クレジットカード		交通系ICカード (PASMO/Suica) 現金 (運営事務所のみ)
利用時間	7:00~22:00		7:00~22:00
返却時間	24時間		

※1 H24.11.21~H25.01.07 無料キャンペーンを実施

※2 1回会員、月額会員の1日の延長料金の上限金額は2000円



利用状況(H24.11.21~H25.01.16時点)①

主要指標

【登録実績】

登録者数	2,019 人 うち1日パス835人
------	-----------------------

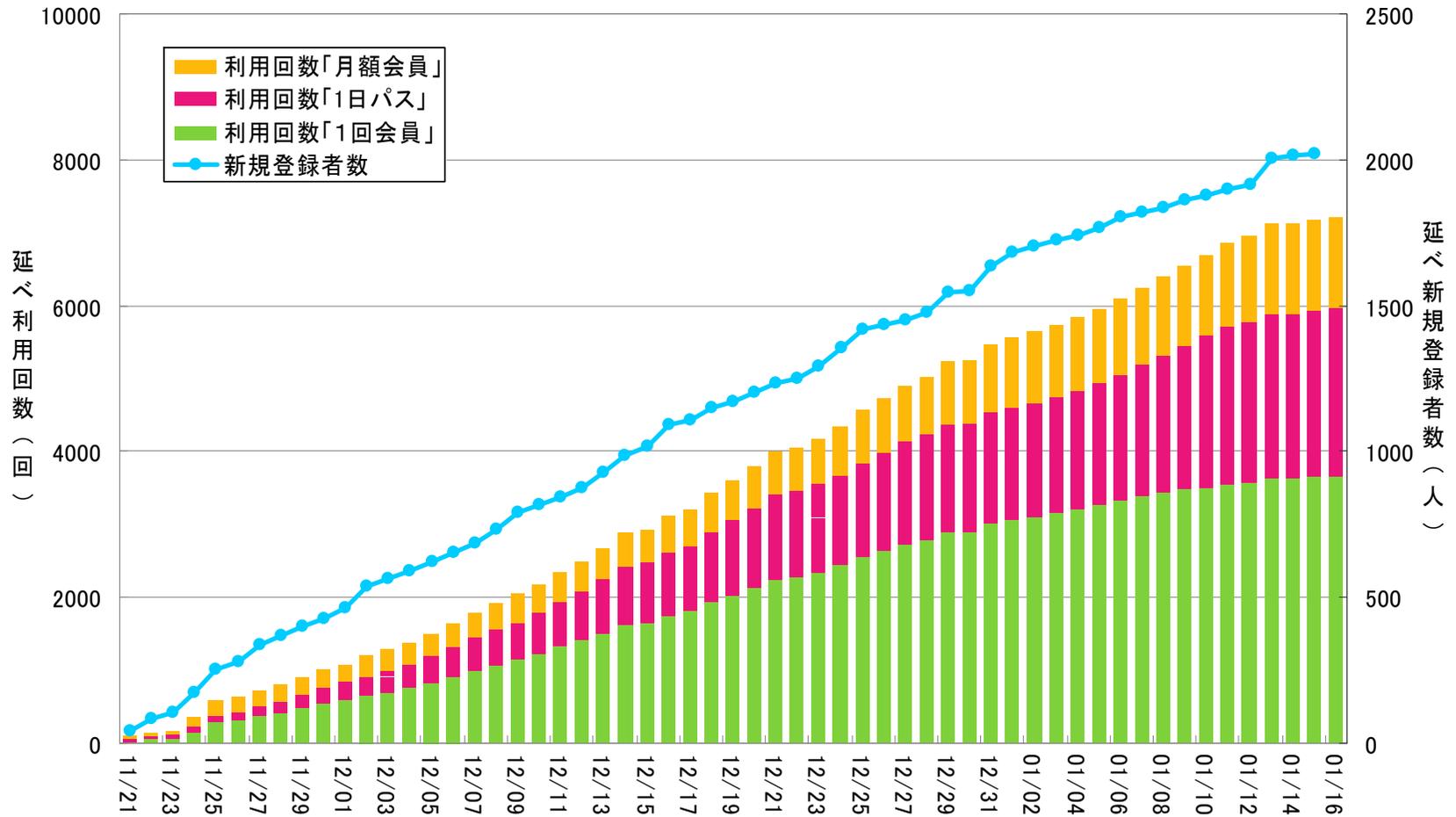
【利用実績】

運営日数	57 日
延べ利用回数	7,216 回
1日平均利用回数	126.6 回/日
回転率	0.84 回/台・日
平均利用時間	43 分/回



利用状況(H24.11.21~H25.01.16時点)②

利用回数と登録者数の推移



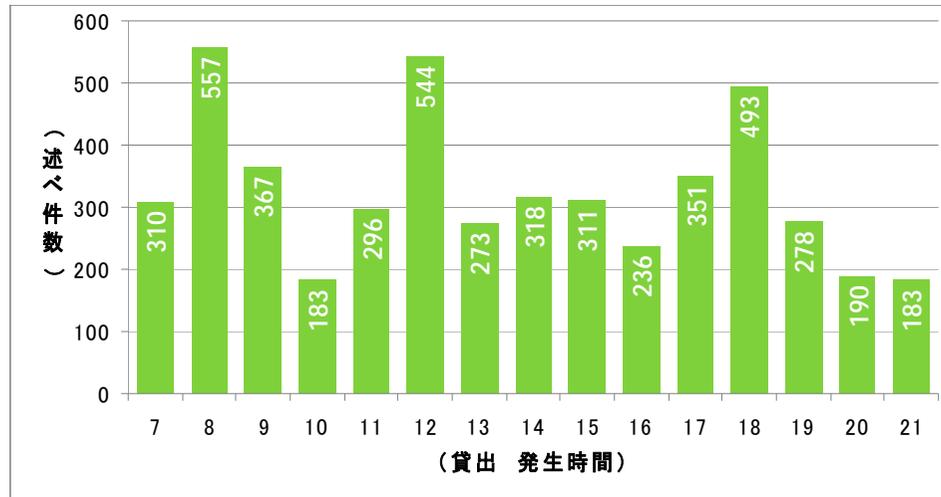


利用状況(H24.11.21~H25.01.16時点)③

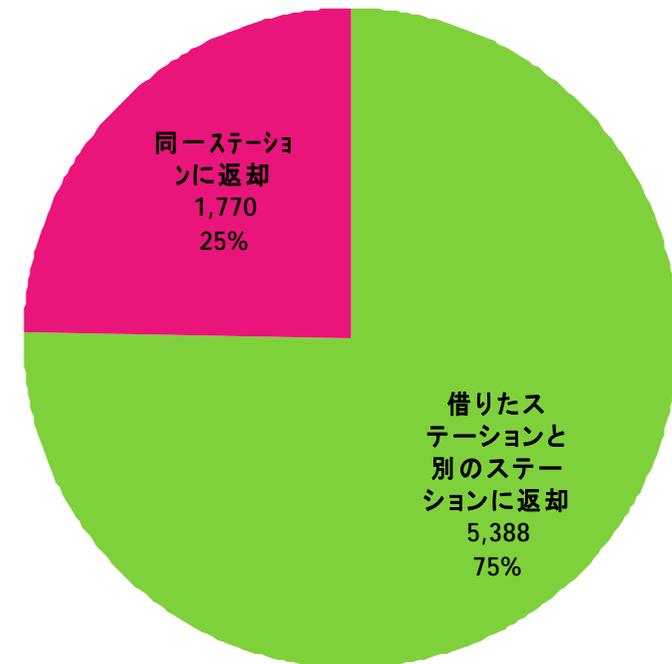
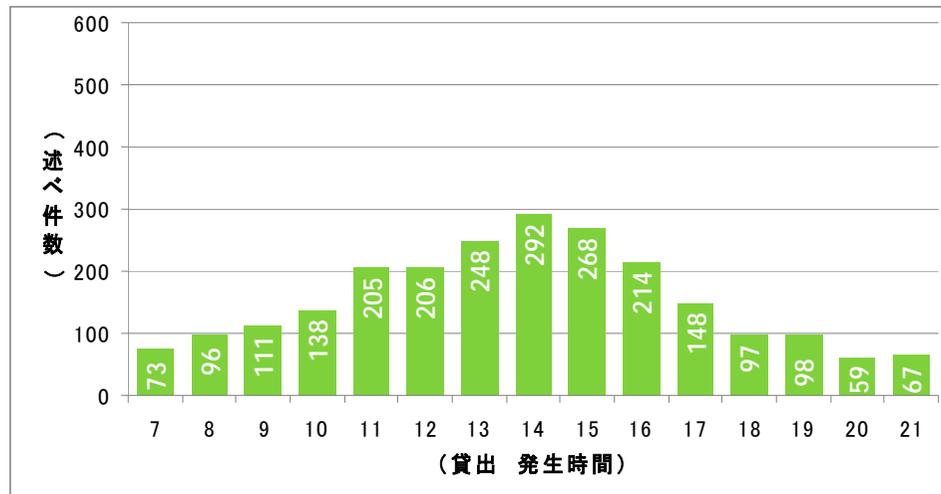
時間帯別の貸出時間

ステーション返却状況

平日 (37日間合計)



休日 (20日間合計)

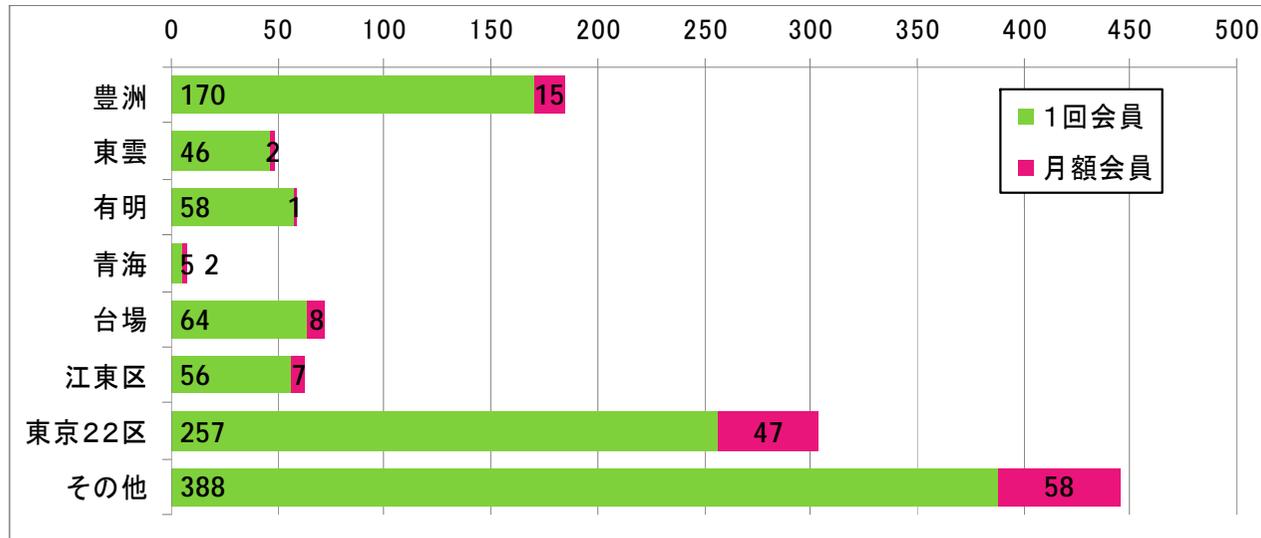




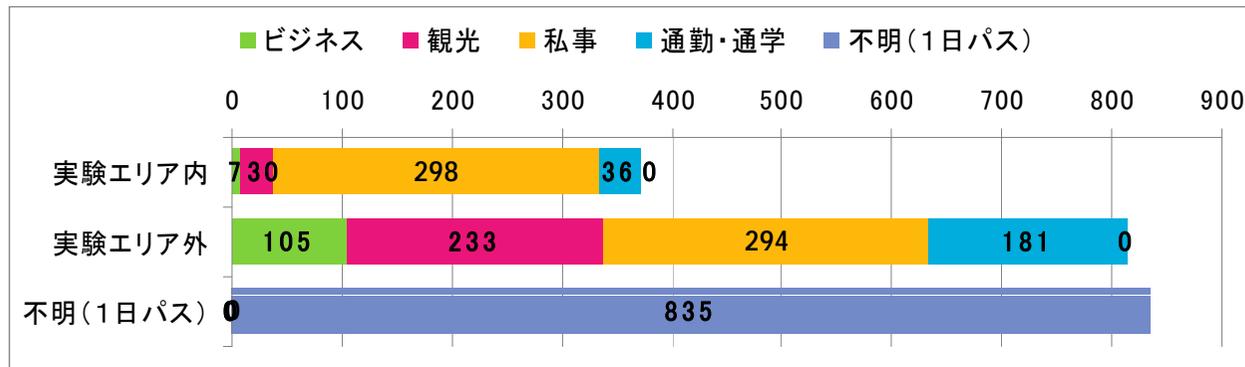
利用状況(H24.11.21~H25.01.16時点)④

登録状況の整理

居住地別／利用プラン別の登録者数



居住エリア別／利用目的別の登録者数

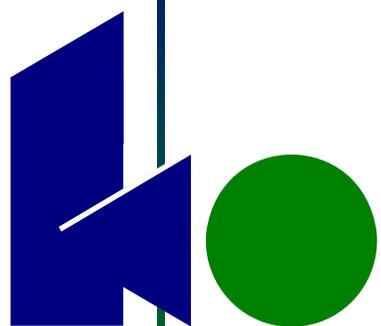




利用状況(H25.01.16時点)⑥

利用回数





ご清聴
ありがとうございました。